

ケアの場所性

北海道浦河赤十字病院精神科を中心に

浮ヶ谷幸代(相模女子大学)

本報告の目的は、精神の病いとともに生きる人たちとのかかわりの場から、ケアの特性の一つである「ケアの場所性」について考察することである。具体的には、北海道浦河赤十字病院精神科の取り組みを例に、(1) 退院予定患者を支援するピアサポーターをめぐって繰り広げられるケアの連鎖による場の生成と、(2) 離院患者(外出して病院にもどらない入院患者)とコミュニケーションをとるために企てられたベテラン准看護師による場の演出、(3)爆発系若者に向き合うために開催された応援ミーティングという場についてのエピソードを紹介する。場に参加するアクターは、精神保健福祉の専門家(看護師、ソーシャルワーカー、保健師、医師など)、精神の病いをもつ患者、ピアサポーター、浦河べてるの家 のスタッフとメンバー、べてるのメンバーの保護者、見学者など、専門家や非専門家を問わず、多種多様な人たちである。

ケアに関する研究は、近年、さまざまな専門分野で多面的に取り組まれている。ラフにスケッチすれば、人間としての基本的な態度である配慮・気遣い・世話を意味する日常生活の文脈、制度的な保健医療福祉のもとで専門分化されたケアについて、専門的な対人技術や専門的知識のありようを研究する文脈、ケアの社会化や保健医療制度・政策に絡めたジェンダー論の文脈と政治経済的な文脈、哲学・倫理における道徳や価値に関わるケアの概念や臨床哲学における身体実践との関わりという文脈などにおける研究である。このように、ケア研究は、他分野での多様なアプローチによる一定の蓄積があるものの、これまでの人類学での取り組みは、のケアの専門家としての看護をめぐる人類学研究(レニンガーほか)と、制度・政策の文脈でのヘルスケアやコミュニティケアの研究(ラッセル&エドガー編ほか)などに限定される傾向にある。

国内では、ケアそのものを人類学の課題として正面に据えた研究は田辺繁治による研究(2008)のほか、近接領域での研究として「介護」の人類学と題した研究がある。藤田真理子は、「介護」の概念を「世話」「ケア」「介助」「看護」「支援」「自立支援」「サポート」「癒し」という言葉を含め、病気や障害を前提とせず、関連する現象を幅広く広義の概念として捉え、「介護」には「世話をする側」と「世話をされる側」との相互作用や変換可能性が内在していると指摘する(藤田 2005)。ここではケアの互酬的な関係を指摘しているものの、ケアの特性という主題に迫ったものではない。そこで、本報告では、ケアを専門家によるケア()に特化するのではなく、また専門的ケアvs 素人ケア()という二元論的な見方でもなく、どちらにも見出せる「人間の根源的な存在様式」としてのケアの特性のうち、「ケアの場所性」について考えてみたい。報告者は、北海道浦河赤十字病院精神科の看護実践と浦河住民の調査研究から、精神保健福祉の専門家と住民の精神の病いをもつ人たちとのかかわり方から見てきたケアの特性について、1) ケアの互酬的關係、2) ケアの応答性(受動性)、3) ケアにある他者性、4) ケアの場所性という特性について提示した(浮ヶ谷 2009)。本報告では、4) のケアの場所性に焦点を絞り、事例をもとに検討していく。その際に、1)から3)までの特性が深く関わってくるのは言うまでもない。

自著で指摘したように、ケアの場所性について、「できごと」としてのケアは、基本的には「人とともにいる」「人とともに暮らす」というそこにかかわる人々の「時間と場所」の共有によって形成される。それは歴史性にかかわる概念であり、その歴史性とは「できごと」の反復による持続的な関係の積み重ねによって形づくられるとした。本報告では、上記のエピソードを振り返り、この主題をさらなる場所論の問題としても掘り下げてみたい。

場所の議論は、1970年代社会学(ルフェーブ)や人文地理学(レルフ、トゥアン)による空間と場所の議論に始まり、人類学では1990年代以降活発化してきたといえるが、本報告では、ロウとローレンス・チュニガが提示した6つのアプローチのうち、「身体化された空間」について参照する(Low & Lawrence-Zúñiga 2003)。身体化された空間とは、その場に参与する身体を感覚的、情動的な経験を伴いながら、世界に働きかける場所として捉える視座であり、その場にかかわる人たちの相互行為や集合的な経験を「いまここ」を生きる経験として位置づける。

それを踏まえて、精神保健福祉という近代的制度そして精神科病棟という近代的施設のもと、フォーコー的な監視-管理空間が、その場に参与する人たちのケアという営みによって、いかに「生きられた場(=身体化された空間)」に変容されているか、しかも、それは浦河という場所性とどのようにかかわっているのか、事例を通して検討してみたい。